

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ふるーれ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日		令和8年1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和7年 12月8日		令和7年 12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・言語聴覚士による個別指導を開始した。	・療育の中で必要と判断されるお子さんを対象に言語聴覚士による個別指導を実施した。保護者同伴で実施することにより、保護者が家庭での対応についても学ぶことが出来た。療育場面の子どものかわり方について、職員にも影響は大きい。	・事業所の閉所に伴い、今年度行ってきた言語聴覚による個別指導の時間が継続できないが、今年度学んだ、子供との関わり方や記録の取り方等を今後の支援に生かしていきたい。
2	・職員4名による手厚い支援を行っている。 ・支援前後に、綿密な打ち合わせを行い、個々のお子さんについて、全体周知したうえで対応が出来た。	・今年度をもって閉所することをご理解いただいたうえで、午前は、個別指導を中心に未就園児と年長児の個別療育を行った。1年限定ではあるが、ベテランスタッフによる個別療育の効果は大きかった。	・今年度学んだ支援方法や子どもとのやり取りについて、今後を生かしてさらに支援技術をスキルアップさせる。合わせて少人数の集団療育の良さも継続していく。
3	・マジックミラー越しに療育参観をすることで、自然な子どもの療育の姿を、保護者と共に確認することが出来た。年間2回(年度始めと年度終わり)行うことで、成長を確認することが出来た。父親の参加も多かった。	・お子さんの様子を見ていただきながら、児童発達支援管理責任者や心理師も同席して、気づきにくい成長した部分を伝えたり、職員の対応の意図を伝えることが出来、課題を確認しその対応について共有することが出来た。	・保護者と共に、お子さんの課題を確認し、その時の対応について、相互に共有できるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流や、近隣住民との交流が難しい	・保護者によっては、療育施設に通うことを伏せておきたいと思っているため、地域発信が難しい。 また、地域的に住宅地であり、近隣との交流を持つことも難しい状況である。	・できる範囲で、地域に向けて事業所の活動を発信していくことが望ましい。
2	・関係機関や他の事業所との交流を持っていない	・地域の障害者施設の協議会等に参加することが体制上難しい。	・今後、交流の機会があれば、積極的に参加し視野を広げていきたい。
3	・施設内外でのバリアフリー化がなされていない	・借家のため、積極的に改善することができないが、できる範囲で危険箇所の改善を努めているが、トイレや玄関前の段差などのバリアフリー化が難しい。	・子どもにとって、安全に事故なく過ごせる環境を今後も考えていく。